

「ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学教育学部3年 桑原 綾

今回のプログラムでは、SENDプログラムの目的である現地の言語、文化学習や日本文化の紹介はもちろんのこと、現地で日本語を学習する人との交流や生活体験など、様々な経験をすることができました。初めて訪れる国で、その国の文化のことを学び、人と接し、実際に生活することでしか感じられないことがあるということが分かったので、ぼんやりと考えていた中期～長期の海外留学について、意欲がより湧いてきました。

プログラムの中で、ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学においてベトナム語やベトナムの文化や世界遺産について、またASEANや地球温暖化についてなど、様々な異なる分野の講義を受講することができ、非常にためになりました。特に印象に残っているのはASEANについての講義です。国際政治や世界史についての知識をほとんど持っていない状態で、さらに英語での講義ということで身構えていましたが、分かりやすく、楽しくお話をしていただいたため、ASEANについての基本的な事項やこれからの展望などについて、非常に興味深く聞くことができました。これをきっかけに、もっと国際関係や国際政治について知っていかなければならないと意識を改める機会となりました。

また、実地研修として組み込まれていたダウンラム村での体験は、かなり考えさせられるものでした。ダウンラム村は、現在においても昔ながらの生活様式が守られていることで、近年観光地として脚光を浴びている村です。風景は日本人が想像する”古き良き田舎”そのものであり、ゆったりとした時間が流れているように感じられました。その一方で田舎の風景を残したまま観光地化するための取り組みが盛んに行われており、JICAによる支援が行われていたり、観光客向けに様々な商品が売られている光景もみられました。観光客向けに商売をしているところや支援がなされているところではそれなりに豊かな生活が営まれているようでしたが、現在も農業のみで生計を立てている家庭もあるようで、観光地化されることによって村全体としては豊かになってきているものの、その中で格差が広がっているような印象を受けました。途上国や地域への支援は多く行われていますが、それがいったいどのように作用しているのかを把握し、支援が必要な人全体に、平等に行き渡るようにすることは非常に難しいことなのだなと痛感しました。

このプログラムへの参加を通して、ASEANやJICAなどの今まで考える機会のなかった多くのことについて考え、もっと知りたいと思うことができました。今後の研究課題や卒業後の進路についてかなり迷って行き詰まっていたのですが、観光開発や発展支援について考えることもおもしろそうだと感じたことは、新たな視点を得るいい機会になったと思います。今回の経験を最大限に活かすことができるよう、努力していきたいです。